

## 退職なさる先生からのメッセージ

### 退職の辞

高野 彰

大学を卒業して勤めたのは一九六四年、東京オリンピックの年であった。景気は上向き、立派な厚みのボーナスをもたらしている写真が社会面を飾っているのを見てうらやましく思ったのを記憶している。その後三十五年勤務し、跡見学園女子大学には二〇〇一年から御世話になった。そして今年、目出度く(?) 定年を迎えることができた。その間五十年近い。よく働いたものである。

跡見学園女子大学で思い出となるのは高校訪問である。地方ばかり割り当てられたため、都内の高校訪問は憧れであった。しかしその反面、地方巡業のおかげで貴重な機会に恵まれた。最初は群馬の吾妻線と東武東上線の沿線の高校訪問であった。ある時、高校訪問が終わわり、別の高校へ移動するために駅に到着すると、次の電車までだいぶ時間があった。駅の付近を歩いていて、たまたま花屋さんが目に止まり、もしかしてと思いながら店に入った。そして「パピルス草」を売っていますかと、尋ねた。ダメ元の質問をしたつもりであったが、予想に反して、先週まで扱っていましたよ、とびっくりするような返事が返ってきた。なんとか入手できないでしょうかと、慌てて食い下がると、栽培している農家に連絡し、入手できるか問い合わせるとの、うれしい返事。そして一週間後、

パピルス草が自宅に送られた。御礼かたがた電話をし、併せて、可能であれば農家を紹介してほしいというところ、これ又いいですよとのこと。そして日を改めて花屋に伺い、農家に案内してもらおう。その農家はパピルス草を栽培しているばかりでなく、室内観賞用に品種改良してヨーロッパにも輸出していたのである。世の中は広いものだとしみじみ思う。

次年度からは、図書及び図書館史の授業で、このパピルス草を材料にして「パピルス紙」を学生に作らせた。せっかくなので紙を作るだけでなく、絵でも文字でも良いから何かで飾るようにと注文を付けた課題を出す、学生は見事に飾ってきた。最近の学生は飾るのがうまい。そして提出させると、かなりの学生が必ず返却してください。記念にしようとしている様子がうかがえる。課題を与えた側からすると、うれしいことであった。

もう一つは活版印刷所を見つけ、その印刷機と活字を入手できたことである。やはり高校訪問を終えてお昼を食べる場所を探していたときであった。たまたま活版印刷所という大きな古い看板が目にとまり、食事もそこそこにその店に飛び込み、中を見せていただいた。店ではもう活字印刷はしておらず、埃をかぶったままにしているとのことであった。長年探し求めていたもう一つの懸案事項が思わず達成できる思いがした。その後何度か通って見せていただく内に、譲っても良いとの発言があり、それを実行した。あわせて印刷作業を手ほどきしてほしいとお願いし、現在に至っている。とても面倒であるが、努力すると努力したとおりのできばえとなる。手作業の面白さであろう。大きな印刷物はできないが、名刺、はがきといった小物類の印刷が可能である。跡見の二、三の先生に強引に名刺を作るようお願いしてしまい、さぞ迷惑だったのではないだろうか。大いに反省している。パピルス紙の制作と、活字印刷は定年後の楽しみとして続けていくつもりである。

十一年の間、跡見学園女子大学の教職員の方々には御世話になりました。改めて御礼を申し上げます。

高野 彰 (たかの あきら)



生年月日 (出生地)

一九四一 (昭和十六) 年九月六日生まれ (神奈川県)

学歴

一九六四 (昭和三十九) 年三月 日本大学法理文学部英文科 卒業

職歴

一九六四 (昭和三十九) 年四月 東京大学総合図書館整理課洋書目録掛勤務

以後、経済学部、文学部、医学部、教養学部の各図書館として再び総合図書館

二〇〇一 (平成十三) 年 三月 東京大学総合図書館情報サービス課辞職

二〇〇一 (平成十三) 年 四月 跡見学園女子大学文学部国文学科勤務

二〇一二 (平成二十四) 年三月 定年退職